

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的コミュニケーション能力の育成に向けた研究の継続により、児童生徒が主体的に学ぶとする力や発達段階に応じた「話す力」「聞く力」を高めることができた。 ・極少人数のよさを生かした個別の対応を充実させることで、学習指導や生徒指導において十分な高まりがみられた。 ・職員間の連携、学校と家庭・地域との連携を十分に図りながら、一体感のある教育活動を展開していきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成 ～地域の特性を生かした主体的・対話的な取組を通して～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>①地域とともにある学校づくり(体験活動を通じたふるさとの魅力を発見・発信する活動) ②離島へき地教育の推進(児童生徒の実践的コミュニケーション能力を育むための研究)</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、小中学校の職員同士で連携を図り、取組の促進を目指す。 ・児童生徒個人の分析データや取組状況等を共有し、個別の最適化を図る。	B	・小中の教員間における共通理解が十分ではない部分があり、指導方針を事前に確認する必要がある。 ・児童生徒個別に最適化した指導を行い、県学習状況調査では県平均を上回ることができた。
	○基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成	○12月実施の県学習状況調査において、全ての学年・教科で、県平均を上回るようにする。	・家庭学習において復習的な課題を課すことで、学習した内容の定着を図る。 ・単元の終わりに確認テストを実施するなど、定着状況を把握し、必要に応じて補充学習を実施する。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「周囲に対して思いやりをもって接することができている」と回答する児童生徒を80%以上にする。	・各教科、特別活動など教育課程全般で道徳教育の推進を図ることができるよう教員間の共通理解を図る。	A	・「周囲に対して思いやりをもって接することができている」と回答した児童生徒が100%だった。保護者の回答も100%。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの見直しを行う。 ・いじめ対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。		
●健康・体づくり	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(4,6年生)生徒(1,3年生)100%	・生徒の希望をもとにした職業講話や「卒業生に学ぶ」という取り組みを仕組む。 ・各行事や児童生徒会(ゆうき会)において、生徒の自主性を生かし、見通しをもたせ、学びの振り返りを行わせる。	A	・3学期のスピーチタイムにおいて、児童生徒全員が「将来の夢や希望」持っていること答えた。(100%) ・コロナ禍のため地域との交流は十分でなかったが、ゆうき会を通して社会性を育てる取組ができた判断される。
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上、生徒80%以上	・昼休みにできるだけ多くの教職員が関わり、児童生徒と運動場や体育館で遊びを通して運動を促し、運動習慣の定着を図る。		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○健康に関する自己管理能力の育成	○帰宅時や食事前に丁寧に手洗いやうがいができる児童生徒が100%	・正しい手洗いうがいの方法を指導し、年間通じて啓発を行う。	B	・「帰宅時や食事前に丁寧に手洗いやうがいができる」と回答した児童生徒は87.5% ・保健だよりや掲示物等での保健指導を行い、手洗いうがいの啓発に取り組んだ。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の徹底 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
○開かれた学校づくり	○本年度教育の重点の周知と実践化・学校と地域との関係づくり	○「加唐小中学校の教育目標を知っている」と回答する教職員90%以上、保護者島民80%以上	・学校便りやホームページでの積極的な情報発信 ・加唐松島全戸への学校便りの配布 ・島内行事への積極的な参加	A	・「加唐小中学校の教育目標を知っている」と回答した教職員98%、保護者80%、島民75% ・学校便りを月に2～3号発行し、ホームページに掲載、島内全戸に全号を配布した。 ・ホームページでは通知や案内などいろいろな情報を積極的に発信した。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者に対して、本年度の教育の目標や重点取組、実践活動の様子などを発信・周知し、一定の理解を得ることができた。来年度は、コロナ禍による変化に対応しながら地域との連携をいかに図っていくかが課題となる。 ・個別シートの活用など、個に応じた学習指導を充実させることで、学力の向上を図ることができた。また「合同スピーチ」や「気になるニュース」など、テレビ会議システムを活用した他校との交流活動も継続的に実施することができた。 ・業務の改善や効率化を推進するとともに、小中の教員間の連携と共通理解を深めながら教育活動を進めていくことが求められる。
--------------------	--